もっと知ろうよ！オキナワ！

第5回　やはり，米軍基地には居て欲しくない，と思う。

人権擁護委員会 沖縄問題対策部会 研修員　仲宗根 南子（67期）

私は，弁護士になるのと同時に東京に来るまでのほとんどの期間，沖縄で暮らしていましたので，沖縄での生活を通して，米軍基地について感じたことについて書きたいと思います。

1　基地がもたらす利益

米軍基地が沖縄にあることの是非を議論する際，飴と鞭が問題となりますが，今回は，みなさんもご存知のとおり，経済効果（米軍による県内雇用，借地料，個人消費等毎年2100億円以上）を得ていること以外について，どのような飴があるのか，ご紹介したいと思います。

(1)　外国人（アメリカ人）と接する機会

沖縄県におけるアメリカ人（多くは軍人）の数は，人口1万人あたり約15人で，全国トップです。2位の東京都は，人口1万人あたり約8人です。

海兵隊は，ON BASE（基地内）に居住することが義務づけられているようですが，位が高くなると，OFF BASE（基地外）に居住することもできるようで，軍人の家族が，沖縄県民と同様の生活を送っているのも普通の光景です。私の実家から徒歩3分以内のエリアにも，外国人が住んでいる家は，私が知っているだけで5軒あります。

したがって，外国人と接して，学校で習った英語を実践する機会が，生活の中に自然に存在します。バイト先で外国人への対応が不可避的だったり，街を歩いていると道を尋ねられたり，レストランの隣の席の人から英語で話しかけられたり。

このような経験は，英語を話すいい機会となる以上に，外国人が特別な存在ではないことを知ることができるいい機会となり，グローバル社会に適応するために，一役買うのではないかと思っています。

(2)　基地内で英会話

積極的に英語を話したい場合には，ON BASEにある軍人の自宅で開催されている英会話教室を利用することもできます。料金も1時間1500円くらいと良心的です。通常，沖縄県民の基地への出入りは禁止されているのですが，基地関係者と同行する際には，身分証を提示して入ることが許可されます。

もっとも，基地内英会話の醍醐味は，ネイティブによる英会話レッスンを受けられることに限らず，基地内のショッピングモールやレストランに繰り出し，アメリカを疑似体験することができることです。

ショッピングモールでは，日本にない目新しい商品が多く販売されていて，しかも，免税です。

(3)　基地内大学の利用

基地内には，メリーランド州立大学の分校があって，軍人等以外の人でも，興味のある科目を受講することが可能です。

例えば，心理学に興味があれば，それに関する講義を受講することができ，心理学と英語を同時に習得することができるのです。正に，一石二鳥です。

ただ，英語が理解できない結果，心理学もチンプンカンプンという，二兎追う者は一兎をも得ずという危険もありますが……。

(4)　アメリカのテレビ番組

基地内では，アメリカ本国のテレビ番組が放映されているのですが，その電波が，基地外にも及んでいるので，沖縄県民も自宅のテレビで，アメリカのテレビ番組を見ることができます。

沖縄は，日テレがない分，アメリカのテレビ番組

が映ることについて，少し優越感があるように思います。

ラジオ放送も然りで，基地内から発信されているラジオ放送を聴くことができます。基地内のラジオ放送は，日本のよりも，世界情勢に関する情報が豊富なのが特徴です。その他には，洋楽の最新のヒット曲がよく流れているのも楽しい点の一つです。

⑸　世界的有名アーティストのコンサート

軍人の慰問団として，世界的有名アーティストが基地内でコンサートを開催することがあって，沖縄県民に向けた告知はありませんが，参加することができます。

Beyoncé，Backstreet Boys，Ne-Yo等々。しかも，ライブハウス等で行うので，目の前で，世界のパフォーマンスを体感することができます。

2　基地に対する私見

米軍基地が沖縄にあることによる飴は，上記にご紹介したもの以上にあると思います。

それでも，個人的には，基地には居て欲しくないと思っています。

⑴　恐怖の体験

私が，高校1年生のとき，午後7時頃に，友人と2人で，人通りがなく，街灯がほのかに照らす歩道を歩いていたことがあります。

すると，私たちの後ろから車が近寄ってきて，並走を始めました。車内には，黒人の男性1人が乗っていて，筋骨隆々で，ヘアスタイルが海兵隊仕様だったことから，海兵隊だったと思います。

その男性が，私たちに声を掛けて，乗車を促してきました。断っても執拗に誘ってきたので，私たちは，互いに顔を見合わせて，2人一緒に走り出しましたが，その車もすぐ後ろを追ってきました。私たちは，小さいロータリーを2周くらい全力で走り回って，小道に入ったところで，その車を撒くことができました。

幸いにも，被害を受けることは無かったのですが，もし何か起こっていたら等と想像すらしたくないものです。

ただ，悲しいことに，沖縄では，このような事件が，実際に，断続的に起こっています。米軍による性犯罪の数は，検挙数として公開されているのは毎年数件程度ですが，単に数字として表れていないからにすぎないとの調査結果も存在します。現に，私の知人にも被害者がいますが，犯人が基地内に雲隠れした結果，捜査が十分に行われず犯人は検挙されていません。

⑵　騒音（爆音），環境破壊など

軍用機関連の事故，授業を中断せざるを得ないほどの騒音被害，実弾演習およびそれによって発生する山火事による森林喪失等の自然破壊，米軍基地による広範囲の土地の占有により，都市形成や，交通整備，振興開発が妨げられている等，日常生活と密接に関連する問題が数多く存在しています。

3　最後に

私が経験した恐怖や，それ以上の思いを強いられた人たちのこと，諸問題が解決されることなく在り続ける現状を考えると，沖縄に基地がある数々の飴は，基地の存在を肯定する理由にはなり得ません。

ということで，安保等の難しい問題はさておき，やはり基地には居て欲しくないのです。